

⑥9 石巻港湾合同庁舎整備事業

受賞機関 国土交通省 東北地方整備局 営繕部
石巻市

<評価>

津波により甚大な被害を受け、使用し続けることが不可能な状態となった庁舎の復旧整備事業。災害応急対策活動の拠点としての機能を確保するとともに、最上階には市の防災備蓄倉庫を合築し、外部避難階段を備え「いつでも誰でも避難できる津波避難ビル」として整備された点や、内部の会議室等も最大516人の避難者受け入れを可能にした点が評価された。

はじめに

石巻港湾合同庁舎は、宮城県石巻市の石巻港に隣接し、海上・港湾関連業務を行う国の出先機関が入居する合同庁舎であり、災害時には災害応急対策活動の拠点施設となる。

旧庁舎が東北地方太平洋沖地震に伴う津波により、2階床まで浸水し、内外装仕上げや設備が著しく損傷したほか、洗掘により基礎杭が破損するなど、甚大な被害を受けたことから、復旧整備したものである。

事業の概要・成果

本庁舎の整備にあたっては、東北地方太平洋沖地震を教訓として、津波襲来時における職員の一時的な避難場所の確保と行政機能の早期回復を図るため、耐震安全性と対津波安全性を備えた庁舎としている。また、災害応急対策活動拠点としての機能を維持するため、主要設備は津波浸水深よりも高い位置に設置するとともに、太陽光発電と蓄電池の併用により、長期間にわたる送電途絶の際にも業務継続に必要な最小限の電力供給が可能となっている。

さらに、石巻市の防災備蓄倉庫121㎡を庁舎の最上階に



石巻港湾合同庁舎外観

合築するとともに、建物外部には津波避難階段を設けている。津波避難階段や防災備蓄倉庫出入口は、津波襲来時に誰でも開放可能な「いつでも誰でも避難できる津波避難ビル」として整備している。また、施設管理者の協力のもと、災害時には庁舎の会議室や各階ホール等も避難スペースとして開放することになっており、最大516人の避難者受入が可能となっている。

おわりに

本庁舎が、災害応急対策活動拠点としての機能を十分に発揮するとともに、近隣住民の方々の安全確保に寄与する施設となることを願っている。

賛助会員 (株)植木組東北支店

⑦0 国見町庁舎建築事業

受賞機関 国見町

<評価>

復旧・復興のシンボルとして、被災した国見町役場庁舎を新庁舎に再建する事業。地域材を活用した木質ハイブリッド鋼材内蔵型集成材を使用し、自然豊かな景観との調和を図った点や、町民にとって親近感や愛着が感じられる庁舎となった点が評価された。

はじめに

平成23年3月11日に発生した東日本大震災で被災した庁舎の再建事業である。震災さらには原発事故からの復旧・復興のシンボルとして町民の誇りとなるような建築とするため、全国規模で設計業者の公募を実施した。開かれた庁舎として町民がいつまでも愛着を持って集い、そして利用してもらえよう日本人に最も親しみのある木をふんだんに使用した建物とし、国見町の景観と一体化した空間を生み出そうとした。

事業の概要・成果

鉄骨の躯体を福島県産材のカラマツによって耐火被覆（木質ハイブリッド鋼材内蔵型集成材）することで、鉄骨造の耐火建築物でありながら、木の架構に包まれた温もりの親しみのある空間を実現した。庁舎という公共建築物で、大臣認定を受けたH型鋼の木質ハイブリッド鋼材内蔵型集成材を「柱」と「梁」に採用した建築は、日本初の事例となる。また、地場産の木材で木質ハイブリッド鋼材内蔵型集成材を構成したことも日本初の試みである。その他にも積極的に内・外装材で地場産の木材を使用し、地域産業の活性化にも寄与している。特に圧密加工した国見産の杉材



木質ハイブリッド鋼材内蔵型集成材を「柱」と「梁」に活用

を議場や町民が利用する窓口カウンターの家具に使用することで、町民がより親しみをもって利用できる内装も実現した。これらの取組みが認められ、第19回木材活用コンクールで最高賞となる「国土交通大臣賞」を受賞する。

おわりに

木の架構に包まれた空間は、やわらかい光に包まれ、温かみのある木の肌ざわりや香りが心と体を安らかにするとともに、手に触れる柱や床、家具は使い込むことで味わいが増し、町民にとって親近感・愛着が感じられる庁舎となる。

賛助会員 (株)安藤・間東北支店